

夢サラダ Vol.62

2018.7.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非)今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

NPO・ボランティアへの期待

暮らしやすい故郷・今治市を私たちの手で！



1998年3月、特定非営利活動促進法(NPO法)が成立し、20年が経ちました。地域課題が多様化・複雑化する中、個別の具体的なニーズに対応できるボランティア・NPOの果たす役割はますます大きなものとなっています。人口減少社会を迎え、税収が減る中、これまで行政が担ってきた「公共サービス」をNPOなどと協力して、効果的に実施する「協働」への期待も高まっています。

市民活動団体には暮らしやすいまちづくりに向け、先駆的なサービスの創造、地縁社会等とも連携した地域に根ざした活動が求められます。そんな継続的かつ多面的な活動を行うために急務なのは、組織基盤強化、そして担い手の育成です。

ボランティア・NPOの活動拠点「今治市民活動センター」では、改めて、市民活動団体、そしてリーダーの運営力をサポートする講座などの充実を進めます。ぜひ、ご活用ください。

■今治市民活動センター プログラム

協働の担い手育成講座

行政などとパートナーシップを組める団体育成を目指して、4回の講座を開講します。

4月：企画書の書き方

5月：プレゼンテーションの技術

2月：広報力のブラッシュアップ

3月：会計の基本・税務の入門

*予定です。一般の方もぜひご参加ください。

団体協議会・交流会

団体同士が情報交換を行う場です。運営上のヒントを共有できる機会にお役立てください。

5月：センター使用者団体協議会

10月：センター使用者団体交流会

12月：センター使用者団体協議会 *予定です。

★協働の担い手講座

「こんな地域にしたい」
「こんなサービスがあれば…」

事業を推進には「人・モノ・資金・情報etc」が必要です。地域が抱える大きな課題には、他の組織と連携して立ち向かうチカラも必要です。協働できる信頼性ある運営力獲得を目指して、講座を開講しています。



NPO法人になることを検討中!
相談に乗ってもらえますか?



助成金申請や広報の相談、
団体の内部研修も
請け負っていますよ。

★相談・コーディネーション

NPOの基礎知識、組織運営や広報等、市民活動に関する相談に応じています。

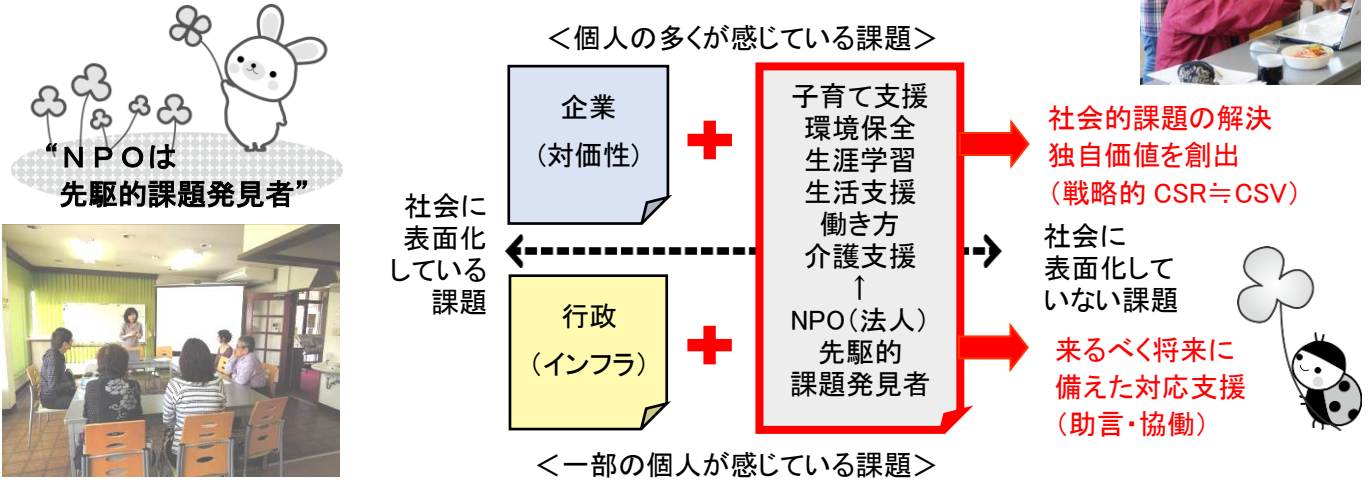
また、ボランティアとボランティアを求めている人のコーディネートもしています。お気軽にお問い合わせください。

今治市民活動センターでは、みなさんのお役に立つ講座や企画を展開しています。使用にあたっては登録が必要ですが、講座等へはどなたでもご参加いただけます。是非、お立ち寄りください。

協働の担い手育成講座

「効果的な企画書の書き方」「プレゼンテーションの技術」

思い描く構想を適切な言葉や数字で他者に伝えること！多くの賛同者を得て、まちを変えていこうとする市民活動団体に求められるチカラです。思いを実効性のある書面にしていく「企画書」、そしてそれを対面で伝える「プレゼンテーション」を学ぶ講座を行いました。



社会が必要としている様々なニーズに対して、税金を基にした「公共サービス」が提供されています。しかし、今、行政による制度的なサービスだけでは豊かなまちは創造できなくなっています。ボランティア・NPOは、まだサービスがない・制度になっていない領域に目を向け、そこにある社会的な課題を解決していく、すなわち「新しい公共」事業を創造しながら、社会を変えていく母体であることをまずは確認しました。

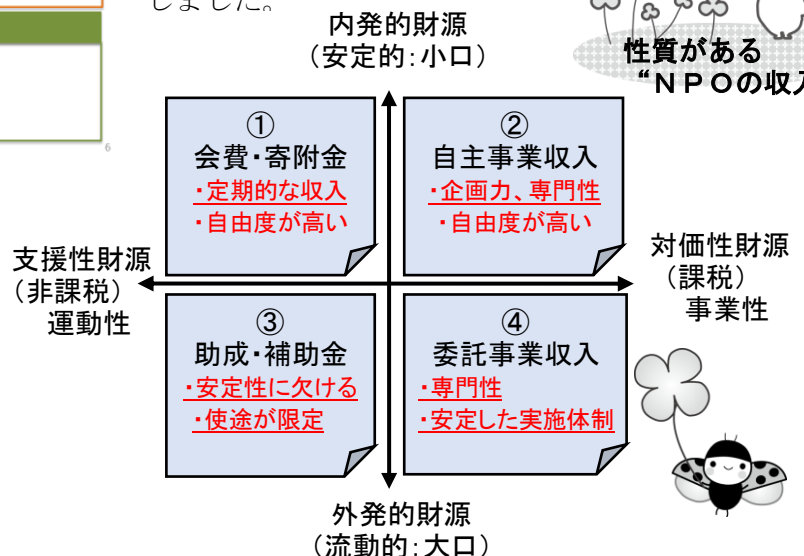
「企画とは何でしょう？」改めて、参加者と一緒に考えました。「こうなったらいいのに…」という、現実の隔たり（＝課題）について、あるべき姿を想像し、解決に向けてのアプローチを考えていきます。解決の仕方は一つではないはず。色々なアイデアをたくさん出していく…、云わば「企画の種」を団体内部でブレインストーミングしていきましょう。その中に、キラッと光る「企画の原石」があるはずです。



企画の基本構成！6W3H	
ニーズの2W1H	
なぜ？(Why?)	「なぜ、何のために行うの？」
誰のために？(for Whom?)	「どんな人に対して行うの？」
どの程度まで(How Far?)	「規模は？どんな状態になっていた？」
手法・場(プロセス)の3W1H	
何を？(What?)	「どのようなことを行うの？」
どのように？(How?)	「スケジュールは？どんな手順で？」
いつ？(When?)	「いつ、どの程度、どれだけの時間をかける？」
どこで？(Where?)	「どこで行うの？」
資源の1W1H	
誰が？(Who?)	「どんな体制で行うの？」
いくらで？(How much?)	「どれだけの経費を使って？」

「社会資源」と言われる周辺にあって活かせる資源をかき集めていくこと！「企画」を画にかいた餅に終わらせないために必要なことです。外部組織との連携や協働の可能性を探る段階であることを確認しました。そして、裏付けとなる財源を考える「予算書」づくりも大切です。講座ではNPOの財源を改めて整理しました。

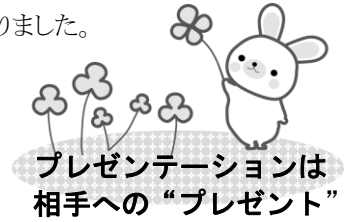
参加者はワークシートを使って、企画書づくりにチャレンジしました。「6W3H」という要素を具体的に明らかにしながら組み立てていく作業です。「会員を増やしたい」「リーダーを育成したい」といった団体の内部的な課題に悩む参加者も…。いずれにしても、「目的」「目標」を明確に設定して、自他での理解を促すステップが「企画書」づくりであることを確認しました。





最後に参加者全員が「プレゼンテーション」にチャレンジしました。

補助金・助成金の審査を想定し、4分間で伝えたい事をまとめました。
「聞き取りやすい声だった」
「聴き手の方に身体を向けた方がいい」
etc. 互いに助言し合う有意義な時間となりました。



課題を整理し、解決のプロセスを考えながら書き上げた「企画書」。内容を相手に伝える「プレゼンテーション」について学びました。「プレゼンテーション」とは相手に内容を伝える作業のことですが、その結果、相手が“理解”し、そして“納得”して、“行動”してもらうことが成果です。講座ではまず「プレゼンテーション」の基本をおさえ、各団体が伝えたい相手をイメージしながら、ワークシートに伝えるポイントを整理しました。



“「企画書」に落とし込んだ活動を行政や財団にプレゼンテーションする”
“新規事業の説明をして企業の協力をお願いする”。

活動が広がれば広がるほど、プレゼンテーションの機会は増えていきます。

「費用が足りないから支援してください」という説明だけでは理解は得られません。“今治市にはこんな課題があって、私たちの活動でこんなにまちは変わります”“支援を通して、御社にこんなメリットがあります”。情熱と合わせ、先の見通しや相手側の視点等をきちんと説明することが大切です。プレゼンテーションは相手への「プレゼント」です。

知ってる?! 人は情報を何で感じるか!

人は「視覚」から 87% の情報を得ています。また 1 分間に伝えることができる情報量は「読む 1000 文字」「話す 300 文字」に対して、「見る 2000 文字」。ビジュアルプレゼンテーションが効果的な所以です。

■ビジュアルプレゼンテーション■

* 分かりやすい

相手の知識レベルの影響を軽減できる

* 印象の深さ

相手の記憶に残りやすい

* 伝達の速さ

相手に多くの情報を伝えられる

伝える中身（企画の内容）が重要なことはもちろんですが、伝える方法が相手の共感を得るポイントとなることを学びました。

（参加者の感想）

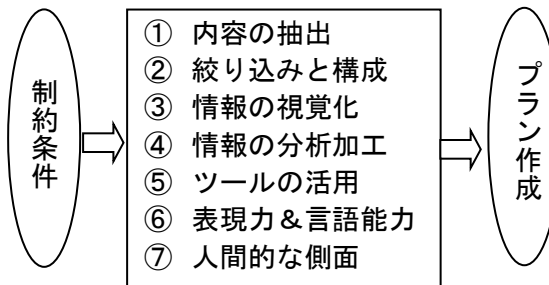
○自分たちのやりたいことだけではなく、相手の立場にたって事業を考えることが大切だと思った。

○少し大きな助成金にチャレンジしたいと思う。

学んだことをいかしたい。

○いい機会になった。活動にいかしたい。

プレゼンテーションの構造



ビジュアルツールとして一般的になった「パワーポイント」。上手く活用できれば、説得力のある提案ができるはずです。講座では「パワーポイント」を使ってのプレゼン資料の完成を目指しました。「パワーポイント」を初めて使う参加者が多い中、まずは「表紙」作り。ここで色彩の原則、そして全体面積の使い方をイメージです。その後、プランの基本構成となる「序論→本論→まとめ」を説明するシートを作成していきました。「説明内容は“腹八分目”」。そんな助言を受けながら、パソコンに向き合います。写真を配置したり、イラストを使ったり…。個性あるシートが出来上がっていききました。



2 日間の講座を通して、企画書、そしてプレゼンテーションシートが完成しました。皆さんの今後の活動に期待します。



平成30年度 市民が共におこすまちづくり事業

～個性的で魅力あるまちへ～ 補助団体が決定しました！



去る6月12日(火)、公開プレゼンテーション審査が行われました。

今年は、「テーマ型協働推進事業」の募集が新たに行われ、書類審査をパスした各団体が事業の目的や効果、必要性について5分間アピールし、審査員の質問に真摯に答えました。審査結果が1週間後に発表され、5団体が採択決定しました！！



●市民が共におこすまちづくり事業●

市民自ら企画・実施する継続性のあるまちづくり事業に、今治市が1団体1事業につき最大50万円を助成。(市民活動推進事業)

そして今年は「テーマ型協働推進事業」を募集し、地域課題に関する8テーマから他団体と協働して効果的に行う事業を対象とします(最大100万円)。書類審査と公開プレゼンテーション審査を経て、事業の採択が決定されます。審査基準は、**公益性・自発性・実現性・費用対効果・団体の評価・事業の効果等**の項目から採点されます。



ART ACTION IMABARI 2018

今治ホホ木座

会長 石畑 由美

個性的な音楽やアート企画により注目度の高いまちづくりを目指し、障がいの有無を問わず親子で楽しめる創作の場を提供する。



外国人観光客おもてなし向上事業

ふれあいステーション菊間

協働：菊間中学校・松山大学ユース・菊間町産業協同組合

地域に増加中の外国人旅行者向けに、学生の学習参加も応用して英・中語の看板を製作し、外国人講師による研修も行う。

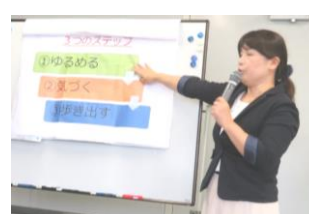


つけよう、いのちを照らす反射材！！

特定非営利活動法人わをん

協働：今治警察署

高齢者を交通事故から守るため、警察官や介護職員と協力し、3世代で話題となる人気の反射材を配布し装着率アップを図る。



ケアラズカフェ ～五感を癒そう～

紡(つむぐ)

協働：愛媛県介護福祉会

介護職員の離職防止や定着促進を図るため、心身に効果の高いプログラムを提供し、交流・支援・情報交換の場づくりを行う。



「私の防災ノート」作成と防災ネットワークの活性化

レディース&ママ防災カフェ

協働：今治市防災士会・人権啓発課

ワークショップで専門家や市民の声を集め、女性視点で実際に役立つ防災が「ブック」を作成し、防災ネットワークづくりにつなげる。



審査員のコメント

・女性目線の企画が多かった。暮らしやすいまちづくりに女性目線の取組は期待できる。
・設立間もない団体からの申請もあり、この補助金がステップアップになればと感じた。
・どの事業も継続性が大切だ。活動の今後を見守りたい。



今治市を魅力的で暮らしやすいまちにしたい…！市民目線の思いを形に継続的な事業展開を期待し、応援していきたいですね。身近なまちの課題に取り組む様々な活動に注目し、一緒に参加しましょう。

7/28(土)

9:00～12:00

ワークショップ ～普段の困りごとを災害時に持ち込まないために～

「女性・生活者・当事者目線で考える防災」

女性が手にもってわかりやすく活用できる、今治市独自の防災ガイドブック作成のため、今治市民のみなさんの現状を知り、学びながら意見を集約するためのワークショップです。

【場 所】今治市総合福祉センター 4F

【参加費】無 料

【講 師】浅野 幸子 氏(減災と男女共同参画研修センター 共同代表)

【問合せ】レディス&ママ防災カフェ TEL. 090-1573-6365 (中井)

